

## 茅ヶ崎西浜高等学校 令和6年度 入学式式辞

日 時 令和6年4月5日（金） 10:00

### 【入学の許可】

- ただいま呼名のありました皆さま358名の、入学を許可します。

一雨ごとに春めいてまいりましたこの佳き日、神奈川県議会議員 平野みぎわ 様、PTA代表 小林あい 様、また、保護者の皆さま方のご臨席の下に、令和6年度神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校第45回入学式を挙行できますことは、私のみならず、本校職員のひとしく喜びとするところでございます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校は皆さんの入学を、心から歓迎いたします。

さて、新入生の皆さんは、今、新たに始まる高校生活に、大きな期待と、少しの不安を抱えているのではないのでしょうか。そんな皆さんに私から2つのことをお願いします。

まず一つは、よき学習者となってほしい、ということです。

ここ、茅ヶ崎西浜高校には、全校生徒1,000人以上、教職員90名以上が生活しています。縁あって出会った人たちがここに集い、お互いに深く関わり合い、学び合っています。

教える側の先生たち、学ぶ側の生徒たち、見かけは役割が分けられているようですが、実は、先生たちも教えることによって多くのことを学びます。熱心な学習者である生徒との触れ合いから、刺激を受け、気づきを得、学び直します。もちろん生徒同士もお互いに学び合い、啓発し合っています。

これが、学校という集団の教育の場がなす、大切な意味合いです。

学習とは知識を得ることだけではありません。スマートフォンを常に携帯し、いつでもネットにアクセスすることが可能な現代において、重要なのは知識を得ることではなく、得た知識を用いて何をするのか、何を創りだしていくのか、という視点や意識や意欲です。

一人で完結する学習ではなく、一人ひとりが学ぶという行為を通して他者と関わりあい、互いに学び合うことができる、それが学校です。

かけがえのない、大切な3年間の高校生活を、本校で過ごすことを通して、よき学習者であることを願います。

もう一つは、自分を大切にし、他者も認めることです。

人は誰でも他人に受け入れられたいという願いがあります。しかし、残念なことに、現実の世界では、他者を受け入れることを拒絶する事例が跡をたちません。

本校の「育てたい生徒像」に「命を大切にし、他者との関わりの中で、思いやりを発揮できる生徒」というのがあります。皆さんの一人ひとりが、この世にたった一人しかいない貴重な存在です。まずはかけがえのない自分を認め、自分自身を大切にしてください。自分を本当に大切にできれば、周りの人たちも同じだということがわかります。自分以外の人たちも大切に、他者を認めることもできるはずですよ。

人とうまく付き合うということは大変難しいものです。どうすればいいでしょうか。そのためには、まず、自分がしてほしいと思うことを、相手より先に試してみることです。例えば、あいさつです。「おはよう」と声をかけてもらえば気持ちがいいですし、「ありがとう」と言ってもらえればうれしいものです。悪いことをしたなと思ったら、できるだけ早く「ごめんなさい」と言えるといいですね。自分がしてほしいことを、まず自分から伝える、よいコミュニケーションはそういうことから始まるのではないかと思います。

教室に戻ったら、まず隣の人に声をかけてみてはどうでしょう。

最後になりましたが、保護者の皆さま、本日はお子様のご入学おめでとうございます。ここまで育ててこられたご苦労に、心より敬意を表します。

これから、本校の教育活動に、温かいご理解とご支援で、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

本日入学した新入生の皆さんが、よき学習者となり、本校が互いの人権を認め合う教育の場となるよう、力を尽くしてまいります。

以上をもちまして、入学の式辞といたします。

令和6年4月5日  
神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校 校長 大江雅美